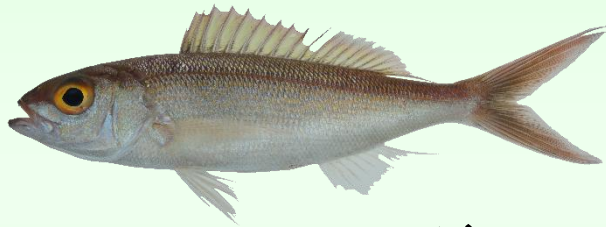




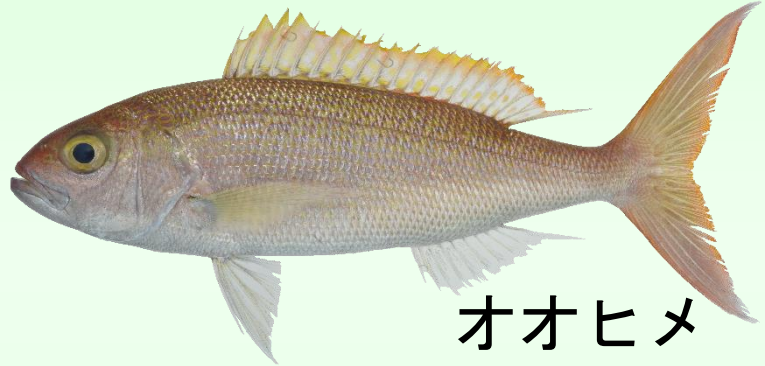
アオダイ



ハマダイ



ヒメダイ

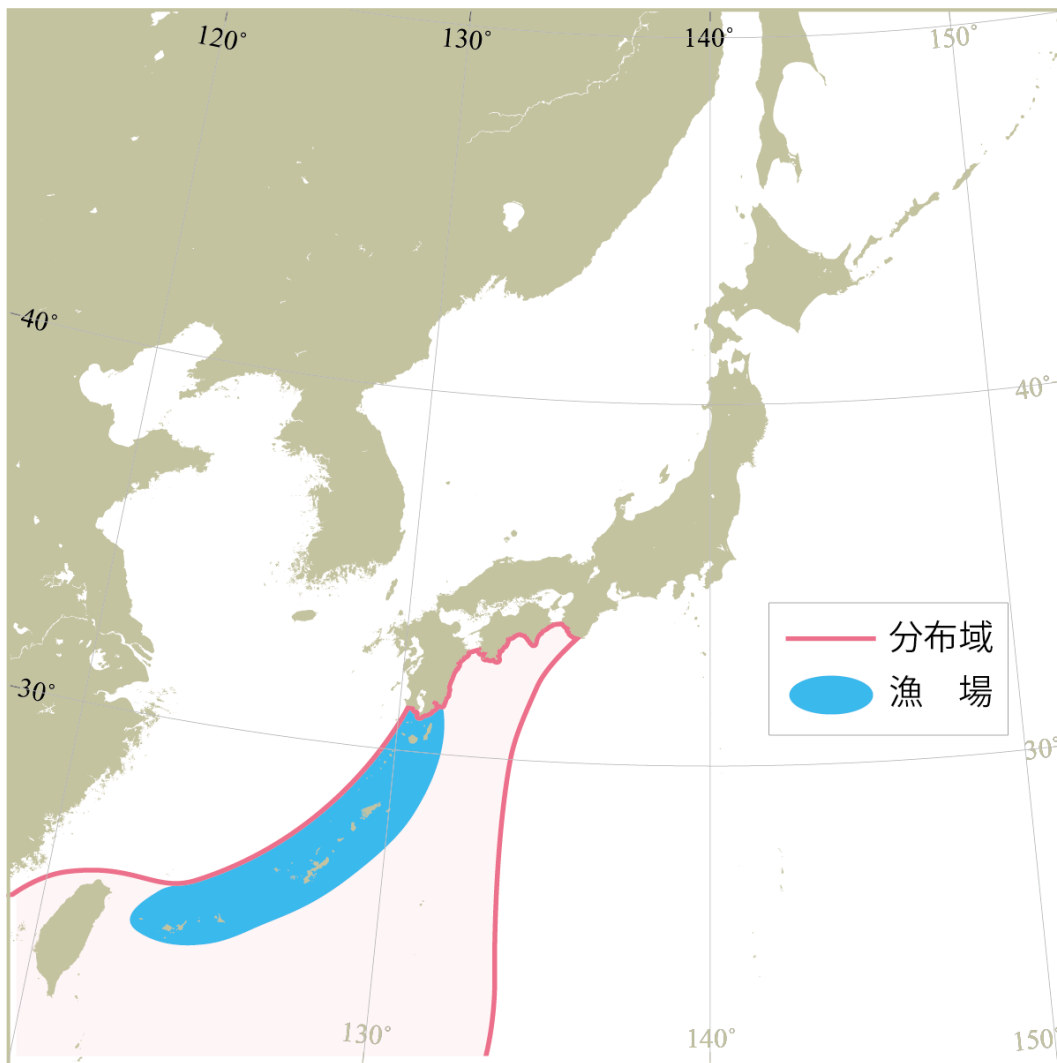


オオヒメ

マチ類

奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島
令和4年度資源評価結果

生物学の特性



- 漁獲はほぼ周年

生物学の特性

- 寿命：アオダイは59歳、ハマダイは55歳、ヒメダイは38歳、オオヒメは35歳
- 成熟開始年齢：アオダイ2歳（一部）、7歳（50%）、ハマダイ9歳（一部）、12歳（50%）、ヒメダイ2歳（50%）、オオヒメ2歳（一部）、3歳（50%）
- 産卵期・産卵場：アオダイ：4～9月、ハマダイ：5～11月、ヒメダイ・オオヒメ：3～10月
- 食性：アオダイは大型動物プランクトン、ハマダイは小型イカ類、魚類、ヒメダイとオオヒメは魚類、ヒカリボヤ類、浮遊性甲殻類、イカ類など
- 捕食者：マハタ、カンパチ、サメ類など

資源評価の流れ

漁場別漁獲量

- ・ 主要港水揚げ伝票集計



2021年までの資源量指標値

- ・ CPUE

生物情報収集調査

- ・ 尾叉長組成

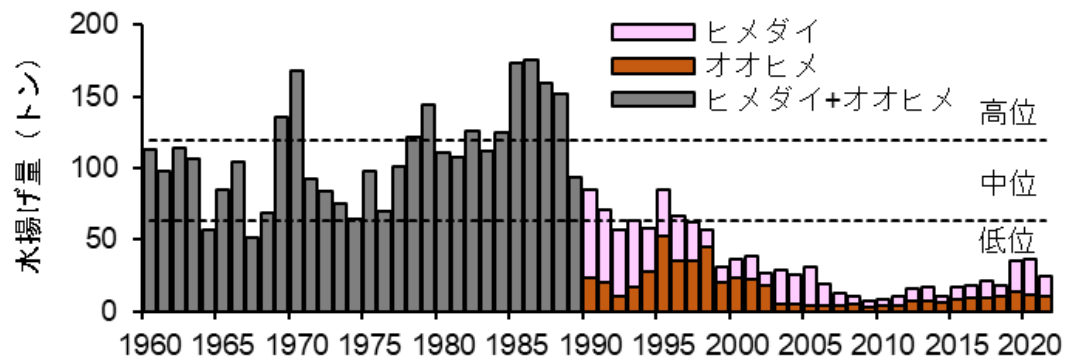
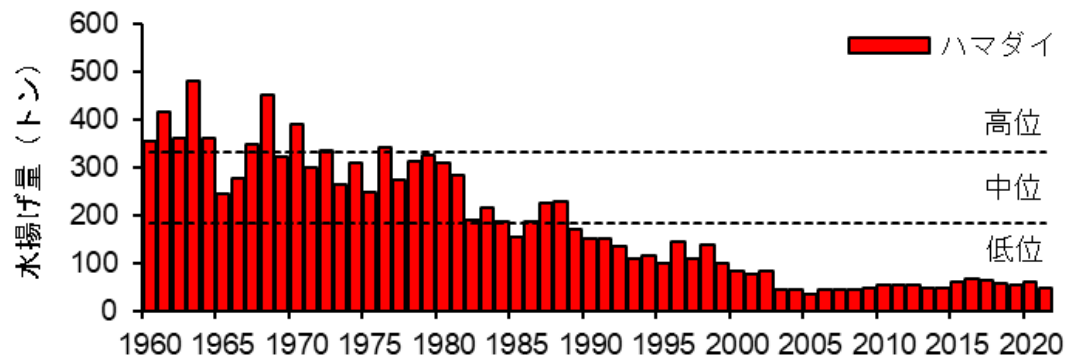
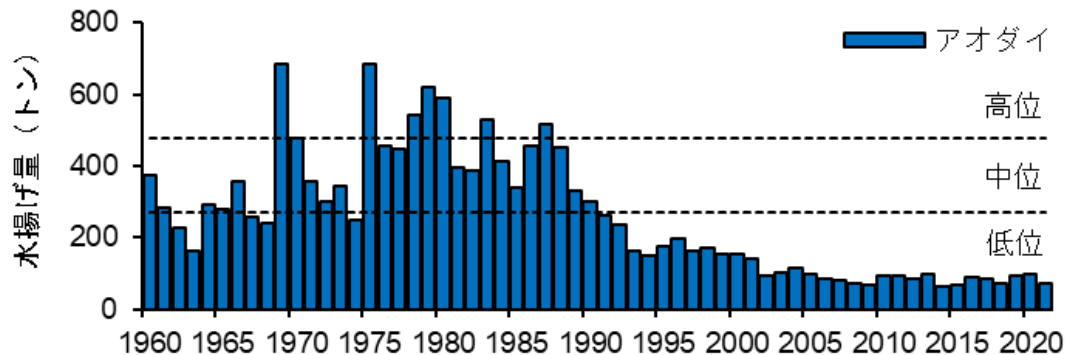


資源水準および動向判断



2023年のABC算定

資源の動向①



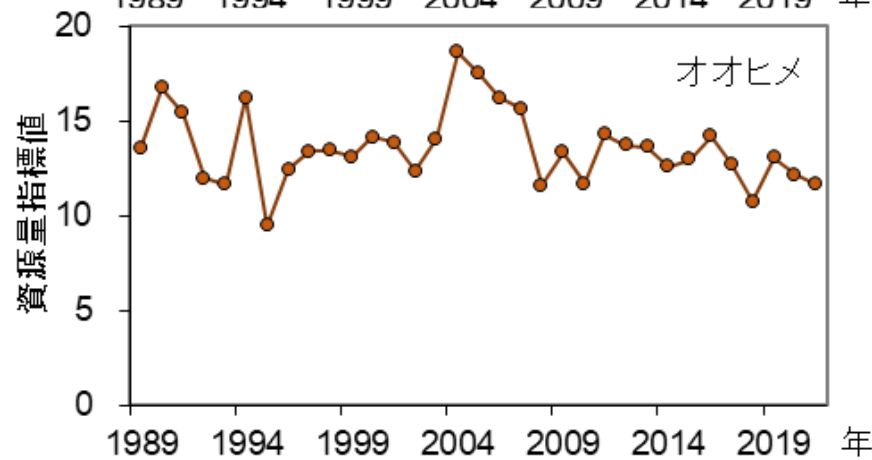
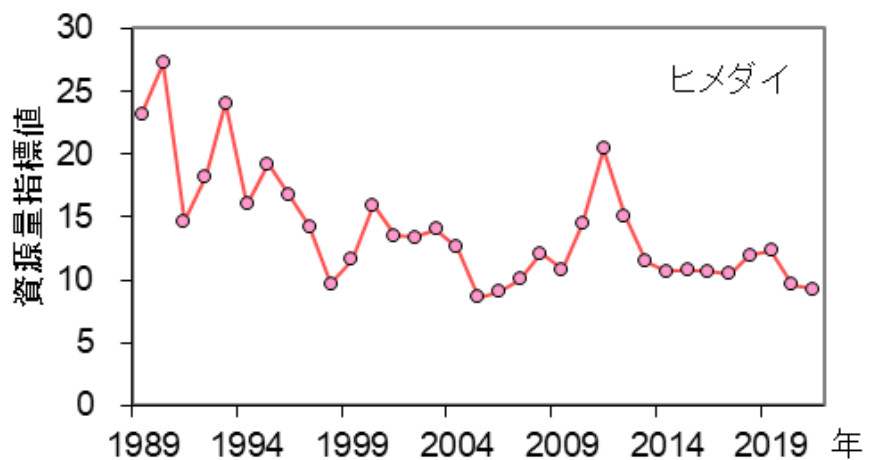
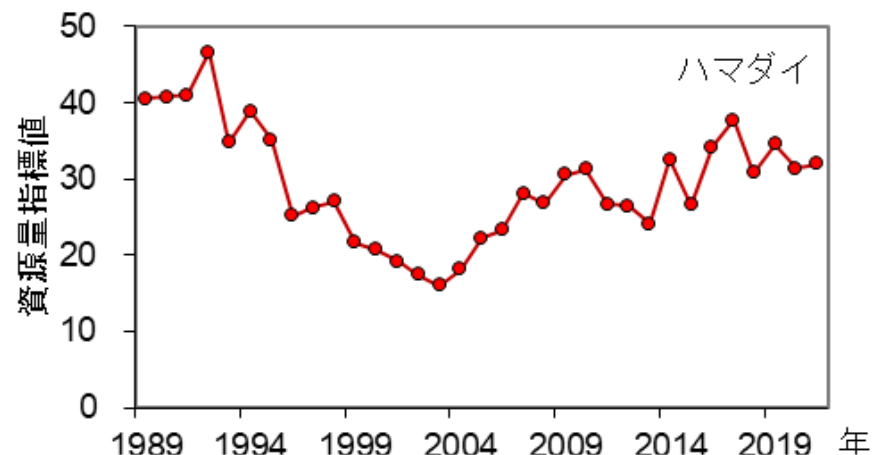
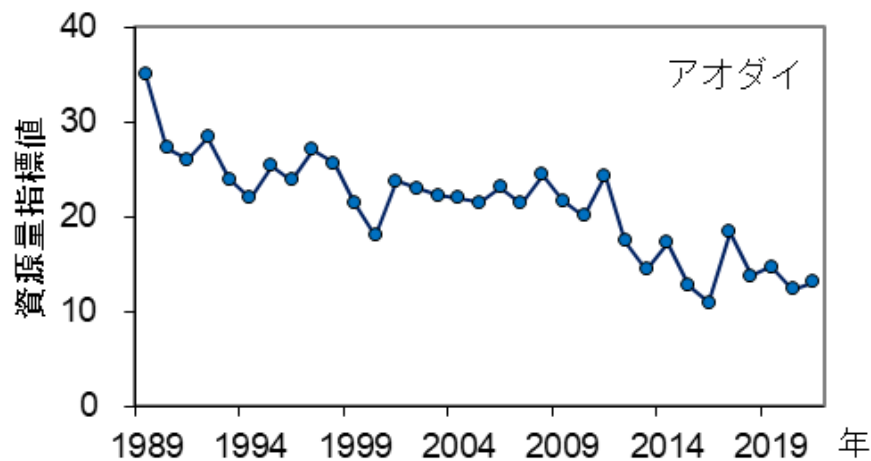
※水準区分：

アオダイ、ハマダイおよび
ヒメダイ・オオヒメの混合種群

それぞれの水揚げ量の最高値と
最低値の間を3等分した値を
高位・中位・低位の区切とした

●資源水準：62年間の水揚げ統計がある鹿児島市中央卸売市場の水揚げ量から、4魚種とも「低位」

資源の動向②



●資源動向：過去5年間の資源量指標値（八重山漁協一本釣り漁船1隻1航海あたりの漁獲量（CPUE））の推移から、アオダイは「減少」、ハマダイ、ヒメダイ、オオヒメは「横ばい」

資源評価のまとめ

- 水準は、いずれの種・種群も低位
- 動向は、アオダイで減少、
ハマダイ、ヒメダイ、オオヒメで横ばい
- 資源量指標値は、アオダイでは1989年以降減少傾向。ハマダイでは2003年を境に減少から増加に転じた。ヒメダイとオオヒメは短期的な増減を繰り返しながら概ね横ばいで推移している。
- 漁獲量と資源量指標値の推移をもとに、2023年ABCを算出した。

2023年ABC表

| | 管理基準 | Target/ Limit | 2023年ABC (トン) | 漁獲割合 (%) | F値(現状のF値 からの増減%) |
|------|--------------------|------------------|------------------|-------------|---------------------|
| アオダイ | 0.7・Cave 3-yr・0.94 | Target | 145 | - | - |
| | | Limit | 181 | - | - |
| ハマダイ | 0.7・Cave 3-yr・0.96 | Target | 129 | - | - |
| | | Limit | 161 | - | - |
| ヒメダイ | 0.7・Cave 3-yr・0.85 | Target | 48 | - | - |
| | | Limit | 60 | - | - |
| オオヒメ | 0.7・Cave 3-yr・0.94 | Target | 35 | - | - |
| | | Limit | 44 | - | - |

- ABC算定規則の2-1)により、 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Cave\ 3\text{-yr} \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (Caveを用い、資源水準が低位である場合の推奨値)
- Cave 3-yr : 2019~2021年の平均漁獲量
- γ_1 : 0.94、0.96、0.85、0.94 (資源量指標値の推移から算出)